

近畿大学医学部附属病院は

「脳PETもの忘れドック」 を開始しました

あなたも認知症の早期発見を目的とした

「脳PETもの忘れドック」を受けてみませんか？

当院では、脳FDG-PET/CT検査・MRI検査・血液検査をセットにした
「脳PETもの忘れドック」を平成30年9月1日より開始しました。

がんと同様に認知症も早期診断・早期受診が重要です。

認知症の中には、正常圧水頭症など、外科的な処置で治療可能なものもあります。

早期の受診により、診断の難しい初期の段階から専門家との信頼関係を築くことが大切です。

※なお検査は自由診療となります。

検診コース	検査項目	費用(自費)
検診A	PET/CT検査のみ	95,000円
検診B	PET/CT検査プラス心電図、血液検査、 腫瘍マーカーを実施	120,000円
検診C+脳MRI	PET/CT検査プラス心電図、血液検査、 腫瘍マーカー、腹部超音波、脳MRI検査を実施	165,500円
検診C+心臓超音波	PET/CT検査プラス心電図、血液検査、 腫瘍マーカー、腹部超音波、心臓超音波検査を実施	155,000円
検診プレミアムコース	PET/CT検査プラスすべての検診項目を実施 (脳PETもの忘れドックを除く)	180,000円
脳PETもの忘れドック	脳PET検査、脳MRI検査、神経心理検査、 血液検査を実施	130,000円

最先端の技術と医療とあなたを結ぶ

きずな

Vol.21
Winter-Spring

Kindai
University
Hospital



今、気になるハナシ **がん治療**

 **近畿大学**
KINDAI UNIVERSITY

医学部・附属病院

<http://www.med.kindai.ac.jp/>

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2

TEL (072)366-0221(代表) / FAX (072)366-0206

お知らせ

近畿大学医学部附属病院は、2019年4月1日(予定)より、
「近畿大学病院」に名称変更いたします。

<http://www.med.kindai.ac.jp/kizuna.html>

きんだいびょういん

検索

広報誌「きずな」のバックナンバーは、病院ホームページよりご覧いただけます。アンケートもホームページ上で実施しておりますので、ぜひご協力お願いいたします。

特集1 心不全

特集2 形成外科手術

特集3 インフルエンザ



近畿大学医学部附属病院

4

チーム医療と環境整備に努力します。

3

南大阪における基幹病院
および救急災害病院として
地域医療に貢献します。

2

特定機能病院として、
医学医療の進歩に関与し、
社会に貢献します。

1

教育病院として、
人に愛され、信頼され、
尊敬される医療人を育成します。

基本方針

安全で質の高い先進医療を提供します。

患者本位の開かれた病院として、

理念



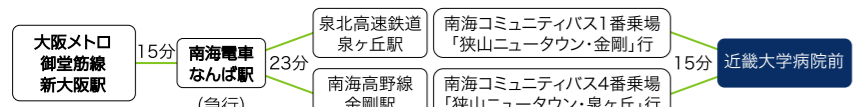
がんをはじめ、あらゆる病と向き合う患者さまを
先進の医療で支えていきます。

近畿大学医学部附属病院は「地域がん診療連携拠点病院」として
がんに関わるさまざまなセンターを運用しています。
たとえば専門医がチームを組んで治療を行う『がんセンター』では
診断医、外科医、放射線医、緩和ケア医などが
早期発見治療を目指して連携し、地域のがん医療の中心的な役割を担っています。
さらに、がん治療というと長期入院のイメージがありましたが、
今は通院治療を選択することも難しくなくなりました。
『通院治療センター』では通院での化学療法やホルモン治療を行い、
日常生活を送りながらの治療をサポートしています。
また、がん手術では低侵襲治療を叶える医療用ロボット「ダ・ヴィンチ」を、
心臓血管外科や脳神経外科、整形外科の手術では3D画像を確認しながら
カテーテル治療を行える「ハイブリッド手術室」を取り入れるなど、
最新設備の導入も積極的に行っています。
とはいえ、一番大切なのはすべてのスタッフが奉仕の精神で医療を提供すること。
患者さまの生活の質を守るためにそのことを肝に銘じ、
スタッフ一丸となって安心の医療をお届けしていきます。

病院長 東田有智



電車・バスでお越しの場合



患者さま用駐車場ご利用案内

当日受診の患者さま

入場より3時間まで 100円
入場より4時間まで 300円

4時間
以降60分
100円

当日1日最大料金
1,000円

お見舞いの方・一般の方

入場より1時間まで 300円
以降60分 200円

最大料金適用日時 平日・土 14:00～24:00
日・祝 13:00～24:00

入場より最初の30分無料

当日受診の患者さまは、駐車券を院内へお持ちいただき、「2階会計窓口」で割引処理を行ってください。精算は屋外(病院棟1階出入口付近)の事前精算機をご利用くださいますようお願い申し上げます。

各診療科のご案内

- 3F 産婦人科、小児科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、疼痛制御センター(麻酔科)、形成外科、歯科口腔外科、東洋医学診療所
- 2F 循環器内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、消化器内科、血液・膠原病内科、腎臓内科、神経内科、腫瘍内科、呼吸器・アレルギー内科、メンタルヘルス科、外科(上部消化管、下部消化管、肝胆膵)、外科(肺)、外科(乳腺内分泌)、外科(小児)、脳神経外科、心臓血管外科、心療内科、漢方診療科、緩和ケア科
- 1F 整形外科、放射線治療科、放射線診断科、リハビリテーション科

外来受付時間

平日	土曜	休診日
予約外又は紹介状をお持ちでない患者さま 8時30分～11時30分	8時30分～11時00分	日曜日・祝日 (5月6日は除く)
紹介状をお持ちの患者さま 8時30分～14時00分		創立記念日 (11月5日) 年末年始 (12月29日～1月3日)

※ 当院での治療等を必要とされる場合、紹介医からの紹介状が原則となっておりますので、当院宛の診療情報提供書(紹介状)を持参いただきますようお願いいたします。
※ 初診時に紹介状をお持ちでない方には、保険外併用療養費として10,800円(税込)をご負担いただきます。
※ 診療科によっては、完全予約制や休診日もございますので、詳しくは各診療科にお問い合わせください。

CONTENTS

理念・ご案内	P.1	[近大栄養部発信!]おいしい栄養食レシピ	P.12
病院長メッセージ	P.2	[Message from Nurse]看護外来(血液内科・糖尿病)	P.13
今、気になるハナシ	P.3-4	イベントスケジュール	P.14
[特集1]心不全	P.5-6	患者支援センターからのお知らせ	P.15
[特集2]形成外科手術 / [特集3]インフルエンザ	P.7-8	つなぐ/卒業生の今	P.16
[Kindai Now]新医学部長就任 / 熱傷センター設立	P.9	各相談窓口のご紹介	P.17
研究紹介	P.10	近畿大学医学部・附属病院 開設50周年事業募金 ~寄附者様ご芳名録~	P.18
薬剤部だより	P.11	脳PETもの忘れドック	裏表紙

がん治療

cancer therapy

免疫チェックポイント阻害剤の可能性について共同研究を行っています

どのようなタイプの患者さまに効果があるのか、あるいはないのかということにまだ未解明の部分が残されている免疫チェックポイント阻害剤。近大病院腫瘍内科はノーベル医学生理学賞を受賞された京都大学医学部の本庶佑特別教授らとともに、バイオマーカーを用いた共同研究を開始しています。

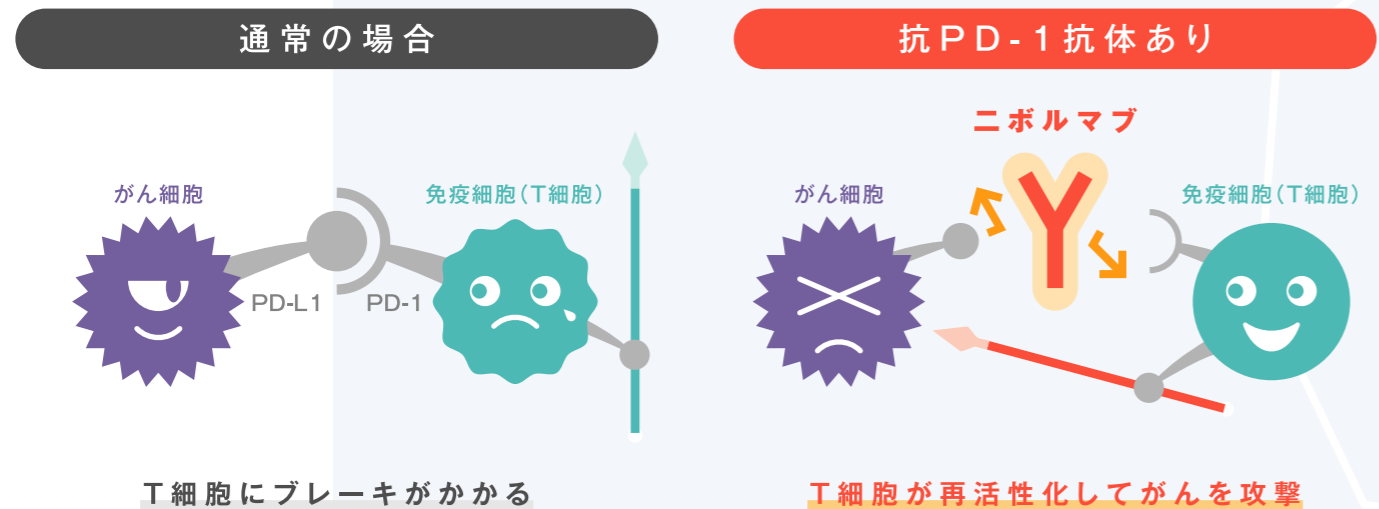


腫瘍内科 主任教授
中川 和彦

オプジーボで生まれた「新しい」がん治療とは？

これまで薬物療法の中心だった抗がん剤や分子標的薬は直接がん細胞に働きかけるものです。それに対して、オプジーボ（一般名：ニボルマブ）をはじめとする免疫チェックポイント阻害剤はがん細胞と免疫細胞が結合することで免疫が正常に働かなくなることを防ぐ薬剤です。あくまでもがん細胞と免疫細胞の結合を抑制するのみで、がん細胞への攻撃は患者さまご自身がもともと備えている免疫力に委ねるという、まったく新しい治療です。これまでの薬剤は平均して約半年ほどしか有効性を保てませんでしたが、免疫チェックポイント阻害剤を使用することでがん細胞を体内で異物と捉えられるようになり、薬剤の使用を中止した後も長い効果を発揮します。自身の免疫力を活かすことで、患者さまによっては年単位での効果を期待できるようになりました。また、オプジーボが効果を発揮する「PD-1/PD-L1」以外にも多くの結合の組み合わせがあると考えられます。今、近大病院をはじめとする共同研究チームはそのメカニズムの解明を急ぐことで、免疫チェックポイント阻害剤の可能性を広げようと取り組んでいるところです。

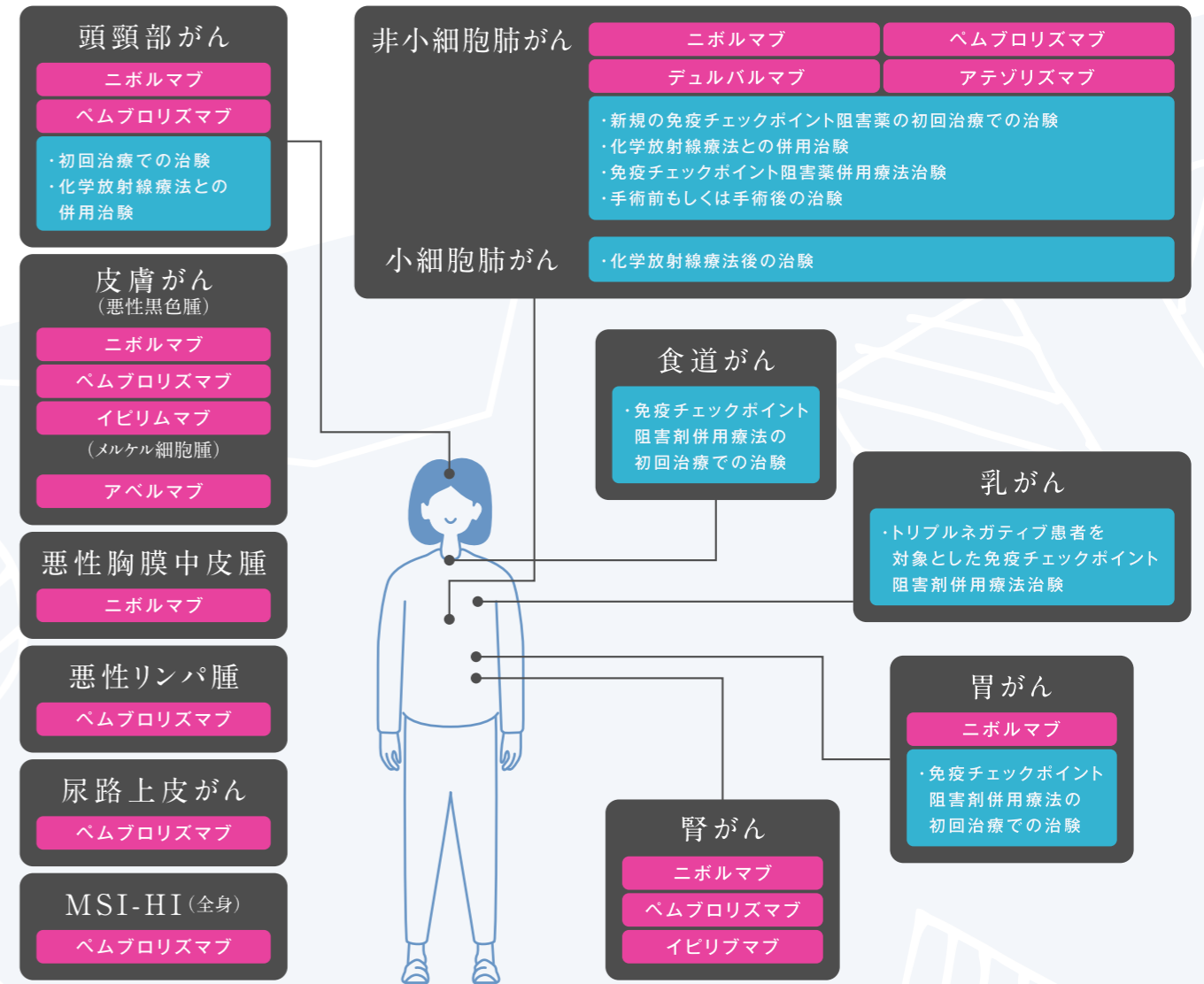
抗PD-1抗体の仕組み



PD-L1とPD-1との結合により、がんが、免疫細胞（T細胞）に対してブレーキをかけて、がん細胞への攻撃が阻止される。

ニボルマブは、PD-L1とPD-1の結合を阻害することで、免疫細胞にかかったブレーキが解除され、T細胞が再び活性化してがん細胞を攻撃する。

免疫チェックポイント阻害剤 適用がん種 と 近大病院腫瘍内科で治験実施中のがん種



その他にも近大病院では数多くの治験を行っています。詳しい情報は以下からご覧ください。

→ 近大病院がんセンターホームページ <http://www.med.kindai.ac.jp/gancenter/index.html>

近大病院は副作用に対するサポートが万全。

免疫チェックポイント阻害剤の魅力のひとつに副作用の少なさが挙げられますが、可能性がまったくゼロというわけではありません。抗がん剤の副作用ほど発症頻度が高くないものの、アトピー性皮膚炎や甲状腺機能低下症、潰瘍性大腸炎といった自己免疫疾患と呼ばれる症状が見られる場合もあります。しかし、それらのほとんどが早期にステロイド投与をすることで対応が可能。近大病院は豊富な診療科を持ち、それぞれの分野の専門家を多数有し、免疫チェックポイント阻害剤を使用する患者さまのサポート体制も万全です。どうぞ安心して、がん治療をお受けください。

心不全

虚血性心疾患や心不全、不整脈などに代表される心疾患。

中でも心不全は高齢者に多い疾患であり、超高齢化が進む日本で爆発的に増加しています。

薬物治療を中心にいきますが、生活習慣などの改善や原因となる高血圧や脂質異常、糖尿病の治療も行い、正しい理解のもとで長く、上手に付き合っていくことがとても大切です。



心不全 チェックリスト

- 階段や重い荷物を持つと息切れがする
- 夜、横になると息苦しくよく眠れない、咳がでる
- 手足や顔がむくむ
- 体重が急に増えてきた
- 疲れやすい
- 食欲が落ちてきた

循環器内科 准教授
岩永 善高

3つの柱で心不全をコントロール

これからの心不全治療として近大病院が力を入れていくのは、主として「大学病院ならではの重症心不全に対する先進医療」、「地域との連携」、そして「緩和ケア」の3つです。先進医療では大学病院ならではの経験や技術を生かして、心臓再同期療法、経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)や補助人工心臓の埋め込みなどの高度な治療を提供していきます。また心不全は高齢者に非常に多いため、患者さまご本人の力だけで日常生活の改善や服薬の管理などを行っていくのが難しいケースも多くあります。そのためには訪問医や訪問看護師、介護サービスといった地域と連携した医療サービスの充実と利用が不可欠です。近大病院では南大阪エリアの基幹病院として、リーダーシップを発揮して地域医療の仕組みづくりにも貢献していくのが目標です。そして時間をより大切に過ごすための緩和ケア。心不全は医療を尽くしても、進行性の病気であることは間違いありません。しかし「進行性」とは言っても、適切なタイミングで緩和ケアを含む多職種による幅広い治療をうけることができれば、より自分らしい大切な人生を送ることができるはずです。重要な治療の一つとしてそれを広めていくことも、私たちの使命であると考えています。

近大病院が取り組む多面的な緩和ケア

緩和ケアが必要なのはがんだけではなくありません

近大病院ではがん患者さまとご家族が中心だった緩和ケアの対象を心疾患にも広げ、心疾患を原因とするさまざまな苦痛を取り除けるように病棟や外来との連携を強化しています。息苦しさや不眠をはじめとする身体的な辛さはもちろん、うつやせん妄といった精神面のサポートも充実しています。心疾患による辛さをお感じの方や、ご家族の方は主治医・病棟スタッフや緩和ケアセンターへぜひお気軽にご相談ください。



看護師 竹久 志穂

さまざまな専門スタッフが心疾患による苦痛を軽減



心疾患による苦痛を取り除くため、緩和ケアセンターには幅広い職域のスタッフがいます。身体担当医、精神科、口腔科の医師をはじめ、認定を受けた専従の看護師や薬剤師、歯科衛生士や臨床心理士、理学療法士や作業療法士に、管理栄養士、ソーシャルワーカーなどが、それぞれの専門知識を活かしながらきめ細やかなサポートを行っています。また、大学病院らしい高度な治療と緩和ケアを両立し、提供していけるのも近大病院ならではの「緩和ケア=最後の治療」では決してありません。心疾患を治療しながら、より自分らしく生きていくためのお手伝いをするのが私たちの役割です。

急性心不全とは

慢性期の患者さまが急激に増悪する場合のほか、これまでに心不全を起こしていなかった方が数日・数時間単位で初めて発症するのが「急性心不全」と呼ばれるタイプです。若年層でも発症する可能性はありますが、やはり高齢になるほどリスクは高まります。重症化を防ぐために早期に治療を開始すること

が基本であるのは、ほかの疾患と同じです。息切れ、動悸、足のむくみなど、気になる症状を感じたら、早めに受診するようにしましょう。また高齢者の方には、ご家族や周囲の方が早く異変に気付けるように、日頃からコミュニケーションを取っておくことが大切です。

慢性心不全とは

急性心不全とは異なって、症状が一定程度落ち着き、外来で薬や生活改善にて経過を観察している状態であるのが「慢性心不全」と呼ばれるタイプです。慢性心不全を抱える方は体を動かす時の動悸、息切れ、足の腫れ、全身の倦怠感や疲れやすさといった症状を認めます。症状を悪化させないためには

食生活の見直しや適度な運動、きちんとした服薬など、患者さまご自身の体調・生活管理が欠かせません。ご本人だけではそれが難しい場合にはご家族の助け、さらには介護サービス、訪問医、訪問看護師などの医療サポートを受けることを積極的に検討しましょう。

形成外科手術

手術跡のコンプレックス、ケロイドによる痒み、
 先天的な見た目に対する違和感や熱傷跡など、
 どんなことでもお気軽にご相談ください。
 近大病院の形成外科では身体の機能を大切にしながら
 前向きで明るい人生を送るためのお手伝いをしています。

豊富な臨床実績と最先端の基礎研究で 身体表面のお悩みを解決

背骨や骨盤といった身体の土台骨と、四肢を主な治療対象にする「整形外科」に対し、身体表面を扱うのが「形成外科」です。頭や顔面、指先を含めた身体全体をカバーし、生まれながらの異常や、病気や怪我などで損なわれた外見的要因を改善・治療していくのが大きな役割です。そんな中で近大病院の形成外科が強みとしているのが「臨床」と「研究」です。南大阪エリアの基幹病院として手術実績とノウハウを積み重ねるだけでなく、軟骨の培養や神経の再建といった最先端の基礎研究に取り組みながら、それを臨床の現場へと還元します。臨床と研究を緊密に連携させながら、患者さまの身体的機能と外見的要因の回復に努めることで多くの方にお喜びいただいているのは、私たちにとっても大きな喜びです。



形成外科 講師
 山内 誠

PICK UP1：顔面骨折・切断指

関西エリアの大学病院でもトップクラスの手術実績や技術、ノウハウを持つのが「顔面骨折」と「切断指」。短い手術時間でかつ出来る限り傷跡を目立たなくする工夫を行うなど、高度な治療をご提供しています。

PICK UP2：顔の骨格異常

顔の変形やかみ合わせの不具合といった、顔面骨格の異常に対する技術力の高さも近大病院の特徴。かみ合わせへの配慮が必要なこれらの手術は歯科口腔外科と連携しながら、患者さまに最適な治療プランをご提案していきます。

PICK UP3：手術跡

大きな外科手術で残ってしまった傷跡やケロイドによる痒みの改善、乳がん治療で失ってしまった乳房の再建などもお任せください。傷跡すべてを消すことはできませんが、少しでも前向きに過ごしていただくためのお手伝いを積極的に行っています。

インフルエンザ

冬に流行するインフルエンザ。正しく知り、正しく予防をすることが大切です。

インフルエンザ、基本のハナシ

インフルエンザは鼻水、鼻づまり、咳、痰、喉の痛みといった風邪とよく似た症状に加え、急激な高熱が出るのが特徴です。また、筋肉痛や関節痛、倦怠感といった全身症状に見舞われるのもインフルエンザならではの症状です。主な感染経路は「飛沫」と「接触」です。適切なワクチン接種と、外出時にはマスクを着用する、帰宅時にはうがいと手洗いを徹底することで予防に努めましょう。ご家族がインフルエンザに感染した場合には個室で休息してもらい、接触時間をなるべく減らすようにすることがポイントです。もしもインフルエンザに感染したら、水分、栄養をしっかりと補給し、安静にするのが基本です。解熱後も二日間程度はウィルスの排出が活発なので、家庭や職場でご自身が感染源にならないように配慮するようにしましょう。ちなみに、インフルエンザのタイプはA型、B型、C型の3種類あります。そのうちC型は症状が軽く、臨床現場で見つかることはほとんどありません。また、時折耳にする「新型」とはA型ウィルスの遺伝子変異によるものです。もっとも新しい新型インフルエンザは2009年に発生・大流行したもののですが、現在では毎年のように流行するタイプになっています。



感染対策室 室長
 吉田 耕一郎

新しい内服の抗インフルエンザ薬が登場

2018年3月、抗インフルエンザ薬として「ゾフルーザ」が新登場しました。症状の緩和スピードは従来の治療薬として一般的だったタミフルと同程度ですが、インフルエンザウィルスの活動や排出期間を短縮することが理論上可能です。周囲への感染を広げるリスクを減らせる可能性があるとして、職場復帰を急ぐ人、乳幼児や妊婦、高齢者と同居する方への効果に期待を寄せられています。

タミフル

主な剤形：カプセル
 服用期間：5日間



ゾフルーザ

主な剤形：錠剤
 服用期間：1回



薬剤の使用は主治医の指示通りに！

タミフルやゾフルーザ、その他の抗インフルエンザ薬に関わらず、医師が処方した通りの量を指示通りに服用することが大切です。また解熱剤は、市販のものや以前処方された際の飲み残しなどを使用しないこと。思わぬ合併症を引き起こす可能性があるため、抗インフルエンザ薬と一緒に処方された薬剤を飲むようにしてください。

予防接種Q&A

Q 予防接種のベストタイミングはいつですか？

A ワクチンを接種し体内で抗体ができるまでに2週間程度かかります。流行のピークは毎年お正月明けくらいからですから、11月～12月が予防接種の目安ではないでしょうか。

Q 予防接種をすればインフルエンザを完全に防げますか？

A 完全に防ぐことはできませんが、かかった場合でも症状が軽く、治りやすい傾向があります。自分を守るだけでなく、感染した場合に周囲へ広めないための対策としても予防接種は受けるようにしましょう。

Q 予防接種は誰でも打てますか？

A 1歳未満の赤ちゃんは打つことができません。また、基礎疾患のある人や妊婦、他のワクチンを接種している人、アレルギーを持つ方などは注意が必要です。主治医に相談するようにしましょう。

10月1日より 新医学部長が就任

松村 到 内科学教室(血液・膠原病内科部門) 主任教授

出身大学:大阪大学医学部 趣味:ミュージカル、演劇鑑賞
専門分野:造血器腫瘍(特に白血病) 好きなもの:沖縄の青い海

近畿大学医学部は「実学教育」と「人格の陶冶」を建学の精神に掲げ、臨床・研究の両分野で社会を担う人材をこれまでに数多く輩出してきました。これからは「ローカル(地域)」と「グローバル(世界)」というふたつの軸を強化したいと考えています。近隣病院との連携を深め、地域医療の現場で活躍できる力を育むとともに、海外研修プログラムなどの充実を図り、世界に誇れる医療人の育成にも取り組んでまいります。そうした若い力を持った医療人たちが、ここ近大病院にも新しい風を呼び込んでくれるはずです。地域連携を図りながら、世界基準の先進医療の提供を目指していきます。南大阪エリアの医療において「最後の砦」とも言える近大病院の成長に、これからもどうぞご期待ください。



研究紹介

01

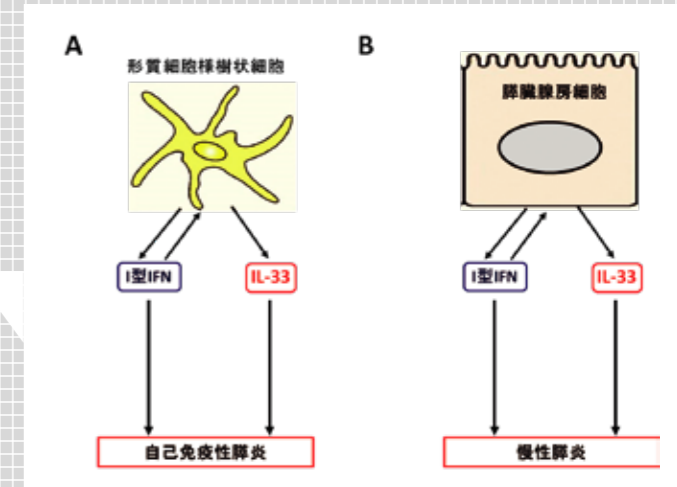
血液検査で診断することで
肺がん患者さまの負担を軽減!

内科学教室(腫瘍内科部門)医学部助教A・高濱 隆幸らは西日本がん研究機構に参加する研究者らと共同で、肺がんにおけるがん細胞増殖のスイッチともいわれるEGFR遺伝子の変異に関する医師主導臨床研究を実施。血液による遺伝子検査の結果をもとに薬剤の投与を行い、その有効性を確認しました。今回の研究結果により、患者さまの負担が大きい内視鏡などによる組織採取から、負担少ない血液検査へ移行できる未来に大きく近づきました。

02

世界初!膵臓の慢性疾患の
発症メカニズムを解明。

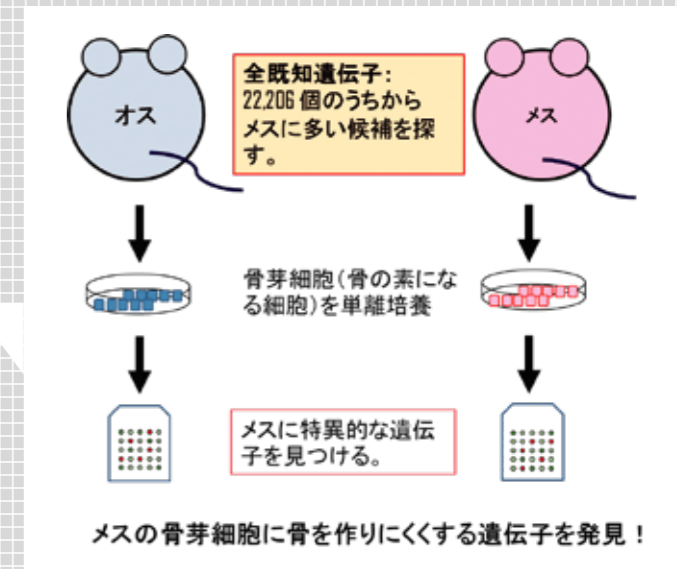
内科学教室(消化器内科部門)准教授・渡邊智裕らの研究グループは、膵臓の慢性疾患である「自己免疫性膵炎」と「慢性膵炎」というふたつの異なる病気に共通する免疫反応の一端を、世界ではじめて解明することに成功しました。これらふたつの病気に対する根治治療は未だ確立していませんでしたが、今回の解明により膵臓疾患の新たな治療法の開発や膵臓がんの予防法が見つかる可能性が広がりました。



03

骨粗しょう症における性差を
解明する一歩に。

患者数の男女差が大きい病気として知られる「骨粗しょう症」。これまでも男性より女性の方がなりやすい病気として認知されてきましたが、一方でその原因、メカニズムについては未解明な部分が多く残されていました。そこで再生機能医学教室助教・石田昌義をはじめとする研究グループは雌雄マウス由来の骨芽細胞の機能の性差を検討。雄よりも雌で骨芽細胞機能が低くなることに関連する可能性を持つ因子の発見に成功しました。



04

胃潰瘍・大腸がん研究を加速させる新しい便潜血の検出方法を確認!

微生物学教室講師・朴雅美らの研究グループは犯罪捜査で血痕の有無を検出する方法として知られるルミノール反応に着目し、ルミノール試薬が便潜血の検出に有効であることを発見しました。これは、従来の試薬で課題とされてきた「潜血の量がわからない」「高価である」といった問題を解決する画期的な方法。今後胃潰瘍や大腸がんなどの動物実験における標準的な手法となり、薬や治療法の研究に役立つことが期待されています。

熱傷センター設立



南河内医療圏の熱傷治療に特化した 他診療科・多職種チームが発足!

大阪府では年間約300~400件の熱傷症例が救急搬送されていますが、南河内医療圏で発生した熱傷患者の約35%は、同地域で治療を受け入れられずに圏域外救急病院へ搬送されます。このような現状から当院は、軽症な患者さまについても受け入れることを基本に「熱傷センター」を救命救急センター内に設立しました。熱傷対応病室と熱傷処置室(広いシャワールーム)を有しており、救命救急センター・形成外科による合同診療を幹とした、多職種・他チームによるチーム医療で軽症から広範囲重症熱傷まで診療を行います。

薬剤師による「病棟薬剤業務」がはじまっています!

病院では様々な場面でたくさんのスタッフが「薬」に関わっています。最終的に薬は患者さまにとって安全、かつ効果的に使用されるべきです。私たち薬剤師は、患者さまに安全で質の高い薬物治療を提供するために、薬の専門家として薬学的観点から適正な情報提供と安全対策を講じるよう努めています。そして、近大病院では今秋から本格的に「病棟薬剤業務」がスタートしました! 各病棟に薬剤師が常駐することで、入院患者さまにとって、もっと身近で頼れる存在となり、医師や看護師をはじめとしたさまざまな医療スタッフと連携しながら、みなさまの入院治療に貢献していきます。



3つの業務で入院患者さまをサポート!

お薬手帳をお手元!

持参薬の確認

入院時には患者さまご本人やご家族から現在使用しているお薬(持参薬)やサプリメント(健康食品)の使用状況、お薬に対する理解度、アレルギーや副作用歴などについてお伺いさせていただきます。手術や検査に影響のあるお薬の有無や、新たに処方されるお薬との飲み合わせなどについても確認し、安全な薬物治療を提供できるよう医療スタッフと情報共有を図っています。

【お願い】

安心した薬物治療を受けていただくために、入院される際には現在使用しているお薬だけでなく、お薬手帳やお薬説明書なども必ずご持参ください。

お薬による治療を効果的に!

薬学的管理

患者さまの現病歴、検査データなどの情報と治療方針から、患者さまにとって適切な薬剤が選択されているかをチェックします。また、投与方法や投与量、投与速度、飲み合わせや配合変化などに問題がないかも病棟で確認しています。使用したお薬の効果や副作用などの確認のためには、検査データだけでなく患者さまご本人から直接お話を伺うことが大切です。薬剤師が直接ベッドサイドを訪問し、副作用の早期発見・重篤化防止に努めています。

あんしんして服薬いただくために

薬剤管理指導(服薬指導)

処方されたお薬が指示された用法で使用しても十分な効果が得られていなかったり、効きすぎていたりすることがあります。そのため、入院中に使用しているお薬について、薬効と服薬用法、服薬の意義や副作用対策などについて説明します。必要に応じてご家族の方にもご協力をいただきながら、薬物療法に対する理解を深めていただけるよう取り組んでいます。

病棟の保管薬剤の管理や各種疾患教室の開催……他にも病棟薬剤師の役割はたくさんあります



おいしい
栄養食
レシピ

delicious nutritional recipe

病院食は普通食を基本にして、減塩食や糖尿食など様々な食糧に合わせて展開しています。減塩食は1日塩分負荷6g以下、糖尿食は個人に合わせたエネルギー量をバランスよく摂れることが大きな特徴です。そこで同日の減塩食と糖尿食の献立と、おいしく食べられるポイント、ご家庭でも作れるレシピをご紹介します。



レシピ紹介 低エネルギー・塩分控えめでもおいしいレシピ

ラタトゥイユ

ラタトゥイユとは野菜だけで煮込む南フランスの郷土料理です。野菜と少量のオリーブ油で作るため低エネルギー、野菜の旨みで塩分が少なく美味しく食べやすい料理です。

作り方

- ① なすびは輪切り、玉葱はざく切り、ピーマンは1.5cm角に切り、にんにくはつぶし、トマト水煮缶もフォークでつぶす。
- ② 鍋にオリーブ油とにんにくを入れて弱火にかけ、香りが出たら野菜を入れて中火にし、木べらで混ぜながら全体に油が回るまで炒める。
- ③ トマト水煮缶と塩を加えて全体に混ぜ、少しずらしてふたをし、汁気がほとんどなくなるまで弱火で煮る。

材料

なすび	50g	オリーブ油	2g
ピーマン	10g	トマト水煮缶	30g
レッドピーマン	10g	にんにく	少々
玉葱	30g	塩	1g



根菜の味噌ラタトゥイユ

バリエーション

材料: れんこん、さつま芋、人参、大根、玉葱、オリーブ油、トマト水煮缶、にんにく、塩、赤味噌
ラタトゥイユといえば夏野菜が定番ですが、冬に美味しい根菜を使用し、味噌でトマトの酸味をまろやかに仕上げます。



組み合わせ方

この1食で、野菜は1日必要量の1/2量(180g)が摂れ、脂質控えめ(脂質エネルギー比30%以下)、塩分控えめ(食塩3g以下)であり、糖尿食・減塩食のどちらにも適切です。

ラタトゥイユ

れんこんバーグ

ブロッコリーのヨーグルトマヨサラダ

米飯150g

エネルギー570kcal タンパク質25g 脂質16g 食塩2.6g



ブロッコリーのヨーグルトマヨサラダ

マヨネーズにヨーグルトを混ぜることでさっぱりとした味わいになり、カロリーダウンにもなります。

材料: ブロッコリー、ツナ缶(ノンオイル)、マヨネーズ、ヨーグルト、マスタード、塩

れんこんバーグ

れんこんのシャキシャキした食感と、大葉の風味が食欲をそそる和風ハンバーグです。

材料: 鶏ミンチ、れんこん、玉葱、干しいたけ、土生姜、大葉、卵、パン粉、赤みそ、濃口しょうゆ、みりん、酒、片栗粉、人参、砂糖

看護外来

患者さまのお申し出や主治医・看護師の判断により受診可能な看護外来。
ご希望される方は是非主治医・看護師へお気軽にご相談ください。

[血液内科]

主に血液がんの治療で造血幹細胞移植を受けた患者さまに、「ロングタイムフォローアップ外来」と呼ばれる看護外来を担当しています。「ロングタイム」と名がつく通り、患者さまお一人おひとりのお付き合いは長期にわたる場合がほとんどです。ともに病と戦う仲間として時間を過ごす中で、社会復帰や結婚といった、人生の節目を歩んでいかれる姿を見ることができるのは、とても看護師冥利に尽きると思います。退院後の患者さまを支えるのは、看護師だけではありません。医師や薬剤師、栄養士など、さまざまなスタッフがチームを組み、患者さまをサポートしていきます。どんなことでもお気軽にご相談いただければうれしいですね。



看護師 西村 統子

[糖尿病]

近大病院では「糖尿病療養指導士」の資格を持った3人の看護師が看護外来を担当しています。看護外来ではインスリン注射の打ち方や血糖測定の方法の指導、フットケアのアドバイスのほか、糖尿病に関する日常生活のさまざまなお困りごとの相談をお受けしています。相談の際に大切にしているのは決して一方的な意見の提案にしないことです。食事、運動、治療、どれをとってもたったひとつの正解はありません。その人らしいコントロール方法を見つけることができれば、糖尿病を抱えながらも楽しい毎日を過ごせます。血糖コントロールが上手くいってなかったとしても、どうぞ安心して看護外来にお越しください。私たちと一緒に皆さんの暮らしにあった方法を見つけたいと思います。



看護師・糖尿病療養指導士 長嶋 ちづる

イベントスケジュール

当院では医療に関するさまざまな講座・教室を開催しております。
お気軽にお問い合わせ・ご参加ください。

がんセンター主催 第11回市民公開講座 申込み不要

2019 **2.16** (土) がんどう付き合う？
～みんなで考えよう～

時間 13:00～16:00 **開催場所** 近畿大学 医学部 円形棟大講堂
お問い合わせ 近畿大学医学部附属病院 患者相談課 072-366-0221(内線3803)

肝臓病教室 申込み不要

2019 **3.12** (木) 高精度放射線治療について

時間 15:00～16:00 **開催場所** 近畿大学医学部附属病院 PET棟3階 大会議室
お問い合わせ 近畿大学医学部附属病院 患者相談課 072-366-0221(内線3803)

肝疾患 市民公開講座 要事前申込み(先着50名様)

2019 **1.28** (月)

第1部「肝細胞がんは治るのか??」
～分子標的薬と免疫チェックポイント阻害薬の最新の話～
第2部「肝疾患相談支援センターについて」
～医療ソーシャルワーカーの立場から～

時間 14:00～15:30
開催場所 社会医療法人三和会 りんくう永山病院
お問い合わせ 近畿大学医学部附属病院 患者相談課 072-366-0221(内線3803)

ともに生きる会 申込み不要

私たち病院スタッフと、がん患者さま・ご家族が「ともに生きていく」ことを目標とした会です。さまざまなテーマに元氣、がん医療に携わる専門家による講演・意見交換を行っております。どなたでも参加できますので、お気軽にお越しください。

2018 **12.13** (木)

がん治療と並行して行う緩和ケア
～「緩和ケア」「医療用麻薬」への誤解を解き、
がんと戦うための武器に変えよう～

時間 14:00～15:00
開催場所 近畿大学医学部附属病院 PET棟3階 大会議室
お問い合わせ 近畿大学医学部附属病院 患者相談課 072-366-0221(内線3803)

2019 **2.14** (木)

高精度放射線治療について

リボンの会 申込み不要 お茶代 ¥100

患者さま・ご家族の皆さまによる語りを中心とした会です。がん体験者ピアサポートがナビゲートしてくれます。

2019 **1.24** (木)

外見の変化に対するケアのポイント

時間 ①14:00～14:45 / ②15:00～16:00

2019 **2.21** (木)

がんの仕事

開催場所 近畿大学医学部附属病院
①PET棟3階 大会議室:レクチャー
②病院棟 1階 外来食堂 アプリコット:お茶会

お問い合わせ 近畿大学医学部附属病院 がん相談支援センター 072-366-7096 (がん相談支援センター直通)

地域と大学病院、ふたりの主治医が治療経過をサポート

がん地域連携パス

メリット

- ・らくらく = 通院の負担(外来待ち時間や通院時間)を軽減
- ・あんぜん = 併存症の治療を安全に
- ・あんしん = 緊急時はすぐに当院の専門的な治療を受けられます

「がん地域連携パス」とは、がん手術などの治療後に近畿大学医学部附属病院の主治医と地域のかかりつけ医が、患者さまの治療経過を共有するための計画書のこと。症状が落ち着いているときの投薬や日常の診察はかかりつけ医が行い、専門的な治療や定期的な検査は当院が行うことで、患者さまの日常生活に合わせた療養を目指していきます。地域と大学病院、ふたりの主治医が治療経過をサポートする「がん地域連携パス」を、どうぞご利用ください。

※まずは担当医にご相談ください

近畿大学医学部附属病院 患者相談課 072-366-0221(内線3803)

INFORMATION

患者支援センターからのお知らせ

あなたにぴったりの「地域のドクター」をご紹介します！

「かかりつけ医紹介窓口」を開設しました！

「かかりつけ医」とは「健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師」のこと。症状が落ち着いているときの投薬や日頃の診察はかかりつけ医が、専門的な治療や定期的な検査は近大病院の主治医が担当することで、患者さまにとって、より「ふだんの暮らし」に寄り添った医療を提供していくことが可能です。「自宅の近くにかかりつけ医がない」「どんな医療機関に通えばいいかわからない」、そんなときは近大病院の『かかりつけ医紹介窓口』が便利です。近大病院と連携した医療を提供できる「連携登録医」をはじめ、関西圏の豊富なネットワークの中から、皆さまにぴったりなかかりつけ医をご紹介します。ぜひ、ご利用ください。



かかりつけ医を持つメリットって？

- 通院の負担（外来待ち時間や通院時間）を軽減
- 緊急時はすぐに近大病院と連携！
- 体調などに関して何でも相談

治療経過や治療方針も共有する「連携登録医」の数もますます増加！

近大病院の主治医と病名や処方歴、検査データ、医師のコメントなどを特別なネットワークで共有する「連携登録医」の数もますます増加。治療経過や治療方針も共有しているので、地域に戻っても継続的な治療をお受けいただける環境が整っています。

かかりつけ医検索システム端末にタッチ！

2階初診・再診受付カウンターの近くに、「かかりつけ医」を簡単に検索できる専用端末を設置しています。診察やお会計の待ち時間などに、お気軽にご利用ください。

3つのメニューから「かかりつけ医」を探せます

- 診療科目から探す
- 地図から探す
- 連携登録医を探す



窓口でのご相談も受け付け中！

2階患者支援センターにある『かかりつけ医紹介窓口』では、事務スタッフによる対面での相談も受け付けています。かかりつけ医のご紹介はもちろん、その他の不安やお困りごともお気軽にご相談ください。

- 女性医師がいるクリニックがいいんだけど…
- 私が望む検査ができる地域の医院って？
- 家からバスで通いやすいところがいいな…



市立貝塚病院

病院理念を「地域住民を守る良質な医療の提供」と掲げられ、「高度・先進医療」「がん医療」「地域医療」を三本柱に地域の中核病院としての機能を担っております。

特に、乳がん高度検診・治療センター、消化器・肝臓センターを開設し、乳がん、子宮がん、消化器がんなどの早期発見・診断から治療、緩和医療まで一貫したトータルのがん診療を行っております。

本年10月には、高い技術で安全に良質な医療の提供が行えるよう、低侵襲外科手術センターを設立されました。常に、医療の質の向上・改善に取り組み、診療科や職種を超えたスタッフの強い連携や体制がとれるよう、積極的な組織づくりに努めてまいります。

また、病院理念を基に、入院前から退院後を見据えた地域の方に寄り添った支援を目指し、入院支援センターを設置し、地域連携を強化されています。患者様が健やかで心穏やかに過ごされるように、「地域の皆様に愛され支援される病院」さらには「職員一同、誇りを持って働きたいのある病院」を目指して様々な取り組みを進めてまいります。



病院からのメッセージ

近畿大学医学部附属病院と当院は、密接な病病連携、また医師の派遣など多大なるご協力をいただき、大変お世話になっております。当院は、大阪府泉州の地域医療を担う病院として、今年度から入院支援センターを設立し、外来から入・退院にかかわる医療と介護の連携に向けて、安心して入院生活や退院後の生活を過ごせるよう支援する体制を整備しております。また、低侵襲外科手術センターを開設し、スタッフの連携と研鑽により、安全な内視鏡外科手術の環境整備を行っています。今後も医療機能の充実を図り、地域医療に貢献してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

市立貝塚病院 〒597-0015 貝塚市堀3丁目10-20 / TEL 072-422-5865

卒業生の今

医療法人

杉山クリニック

「9期卒業生」
杉山和義先生



杉山 和義 先生

近畿大学医学部9期生の杉山和義です。昭和63年に卒業後、旧第内科香取瞭教授に入室させて頂き、大学院を平成6年に終了し、大学関連の民間病院で勤務した後、平成14年に堺市の泉北高速鉄道深井駅前で開業いたしました。内科、家内の専門である皮膚科を標榜しましたが、開業当初皮膚科の患者様が多く来院され、私も皮膚科の勉強をせざるを得なくなり、当時の皮膚科教授宇塚正先生に許可を頂き大学の外来で研修させて頂きました。その縁もあって現在の皮膚科教授川田暁先生には、大変懇意にして頂き、現在皮膚科非常勤講師として日々ご指導を受けております。内科としては、堺市医師会内科医会の役員をしています。年に数回大病院の先生方を講師としてお招きし、堺市での講演会を開催するのをお手伝いしております。現在、堺市で、開業及び勤務医をされておられる先生方がかなり多くいらっしゃいます。今回1期生の山本整形外科山本哲先生と相談し、近畿大学医学部同窓会支部「堺近畿医会」を立ち上げました。活動の第歩として今年4月12日に第1回総会及び学術講演会を開催致しました。本会は、堺市及びその付近で、開業、ご勤務されている先生方を中心に、学術的側面や地域連携を念頭に置いた会として運営してまいります。5年後に近畿大学医学部附属病院が堺市の泉ヶ丘に移転する予定と伺っております。この堺近畿医会が、母校発展の橋渡しになればと微力ながら願っております。これからも近畿大学の益々のご発展をお祈り申し上げます。

杉山クリニック 〒599-8236 堺市中区深井沢町3294番地 / TEL 072-276-1717

各相談窓口のご紹介

病気のこと、治療のこと、暮らしのこと。当院ではさまざまな相談窓口をご用意して、患者さまのお悩みや疑問、ご相談にお応えしています。

患者支援センター

患者さま・ご家族・地域の開業医の先生や医療機関、介護施設や介護事業所の方々、そして院内のスタッフからのご相談やご依頼をお引き受け致します。
患者さまとの信頼関係を大切に受診される皆さまの権利を守っていきたくと考えております。

【受付時間】
月～金 9:00～17:00
土 9:00～12:45
お問い合わせ 072-366-0221

緩和ケアセンター

がんをはじめ、重い病を抱える患者さまやそのご家族の身体、心などのさまざまなつらさを和らげ、安心して暮らすことができるように診断時から支えていくのが「緩和ケア」です。
つらさや不安を抱え込まず、専門の医師や看護師にお気軽にご相談ください。

【受付時間】
月～金 9:00～17:00
お問い合わせ 072-366-0221

がん相談支援センター

がん相談支援センターは国立がん研究センターの研修を修了した相談員が、がんに関するご質問やご相談にお答えしています。
がんの診断や治療についてもっと知りたいとき、不安でたまらないときに一緒に考え、情報を探すお手伝いをしています。

【受付時間】
月～金 10:00～16:00
お問い合わせ 072-366-7096

相談窓口

肝疾患相談支援センター

肝疾患相談支援センターでは肝がん、肝硬変、肝炎など、病気の種類に関係なく、肝臓に関するさまざまなご相談に面談とお電話で対応しています。
また、治療や検査についてだけでなく、経済的な支援制度に関してもお問い合わせいただけます。

【受付時間】
月～金 9:00～17:00
お問い合わせ 072-366-0221

栄養相談室

糖尿病や高血圧、心疾患、腎臓病に対する食事療法のほか、胃や大腸の手術後の食事の進め方、嚥下機能低下時の工夫など、「食」と「栄養」に関するご相談にお答えしています。
化学療法中で口内炎や吐気で食べられないなどのお悩みもお聞かせください。

【受付時間】
月～金 9:00～17:00
土 9:00～12:00
※まずは担当医にご相談ください

NEWS 公費関連窓口が移動になりました。

生活保護や労災、高額医療費の申請、各種点数証明など、これまで患者支援センターで行っていた公費関係のお手続き窓口が初診受付横に移動になりました。福祉相談、療養相談、介護・地域連携相談、がん・肝疾患相談、緩和ケアについてのお問い合わせなどは従来通り患者支援センターにて承っております。

- 対象のお手続き・ご相談
- 生活保護、労災、交通事故
 - 高額医療費
 - 難病、小児慢性特定疾患
 - 自立支援(更生・育成・精神通院)
 - 各種点数証明(日本スポーツ振興・難病など)



近畿大学医学部附属病院 医事課 072-366-0221(内線2171)



近畿大学医学部・附属病院 開設50周年事業募金

近畿大学医学部・附属病院の開設50周年事業として、募金を開設しております。
みなさまの趣旨へのご理解とご支援を賜れましたら幸いです。

目的
本法人の建学の精神を踏まえて、近畿大学医学部の教育・研究・診療を飛躍的に発展させるとともに、これからの医学・医療を担う人材を育成することで日本の医療の発展と地域医療の充実に貢献する。

- 概要
- 教育研究への寄付
最先端の研究活動を支え、未来の医療を切り開く。
 - 医療施設設備への寄付
人に愛され信頼され尊敬される医療人を育成する根幹を支える医療施設の充実に。
 - 学生支援への寄付
医療人としての人格形成に有意義な学生生活を支える。
 - 施設設備への寄付
未来志向の医学教育のさらなる発展に向けて。
 - 大学主催行事への寄付
在学生と卒業生を結ぶ絆を育む。医学教育を支えてくれた人々への感謝。



寄付金額

法人：一口 50,000円
個人：一口 5,000円

※寄付金には税制上の優遇措置が受けられます。



お問合せ資料請求先

近畿大学
医学部・病院事務局 総務広報課 募金係
〒589-8511
大阪府大阪狭山市大野東377-2
TEL:072-366-0319/FAX:072-365-8300
URL:https://www.kindai.ac.jp/medicine/about/facility/50th-anniv/



近大に関わる様々な事業が
わたしたちのビジネスフィールドです



メディカルサポート事業/各種販売事業等/
レストラン・コンビニエンスストア等の事業/
旅行関連事業/保険代理店事業/
建設関連事業/施設管理事業/
自動販売機管理事業/業務委託事業/
印刷・出版事業

お問い合わせ 受付時間/9:00～18:00(日・祝休)
☎072-365-7863
http://kindai-a.co.jp

■本社
大阪府大阪狭山市大野台1丁目31番33号
■東大阪営業所(近畿大学 東大阪キャンパス内)
大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号 近畿大学31号館1階

